

米本和広氏著「我らの不快な隣人」 より抜粋

脱会説得の報酬

いったい麻子の両親は、どれだけ黒鳥や清水に払ったのか。「領収書をもっていないので、記憶でしかないけど、少なくとも」と言いながら、思い出してくれた。

戸塚教会に最初に訪問したときに一〇万円。

月例献金が一万円で、五年間で六〇万円。

クリスマスなど教会の行事献金が年五万円で、合計二五万円。

二つのアパートを斡旋してもらった御礼として各一〇万円で合計二〇万円。

個人面談料が一回二万円。年に最低三回は面談しただろうから、最低に見積もっても五年間で合計三〇万円。

脱会したときの謝礼金として二〇万円（うち一〇万円は教会に献金）。

牧師館や教会新築の際の献金などまだあるが、これだけでも合計一六五万円にのぼる。

特徴的なのは、まとめて大金を払うのではなく、長期にわたって支払いが続いていることだ。黒鳥の「最初からいろんなことを教えないほうがいい」という発言に、父親が「上手に商売している」と見るのも、あながち悪意あつてのことではないのだ。

興味深いのは、お金を支払う際に、黒鳥からこう念を押されていたことだ。

「このこと（お金を受け取っていること）は、お子さんに内緒にしておいてくださいね」

統一教会は反対派の牧師のことを「脱会屋」と批判をしている。それを意識して、「商売として脱会活動をしていた」と脱会者たちに思われたくなかったからであろう。

黒鳥が金儲けのために脱会活動をしていたとは思わないが、それにしても麻子の家だけで一六五万円。

同時期に勉強会に参加していた二〇数人の脱会者の家族が同じ金額を支払っていたとすれば三千万円以上になる。

黒鳥は九七年頃に自宅（牧師館）を新築し、ライオンズマンションから一軒家に引っ越している。麻子と美佐が謝礼金が新築費用に使われたのではないかと調べようとし

たことがある。戸塚教会の信徒の中にも同じような疑問の声があがっていたというから、彼女たちの穿ちすぎというわけではないだろう。

清水への支払いはあまり記憶に残っていないというが、「間違いないところで、**最初に一〇万円、脱会後に二〇万円だった**」という。

清水から捨てゼリフのメールをもらった前出の母親はこう振り返る。

「清水先生に『謝礼金はいかほど』と聞いたことがあります。そのときには『気持ちの問題ですよ。そういえば**一〇〇万円を払った人もいたなあ**』とおっしゃっていた（笑）」

清水がマンションに説得にきたのは四回。「高いと思ったけど、**謝礼金として二〇万円**。説得に同行してきた脱会者たちに**食事代として一〇万円渡しました**」という。このあとも、感謝の気持ちをこめて、教会を訪ねたときに**一〇万円**、息子が結婚したときに**一〇万円**、孫が生まれたときに**一〇万円**、二人目の孫のときに**五万円**を渡している。清水が手にしたのは**合計六五万円**である。

ここまで感謝の気持ちを表しているのに、前述したように、**さらに感謝の強要**をしてくるのだから、母親は呆れてしまったわけである。

今利理絵たちの提訴段階で、清水が説得した人の数は五〇人以上にのぼる。先の**母親は六五万円、麻子の両親は三〇万円**だが、少なく見積もって仮に一件あたり平均二〇万円を受け取っているとすれば、**合計で一千万円**にもなる。

清水に電話で取材を申し込んだ。結局断られたが、清水の人柄なのか、会うことはできないと言いながら、質問の一部には答えてくれた。

謝礼金への質問にはおおむね次のように語った。

「教会でなく私個人への献金は、私がもらっている。その中から私も信徒と同じように聖書にある『**一〇分の一献金**』（収入の一〇分の一）、いやそれよりももう少し多く献金している。だいたい三〇〇万円ぐらいか。私が大田八幡教会に赴任する前の教会の収入は約七〇〇万円。私が献金するようになって一千万円を超えた年もあったから」

正直に語ったと思うが、釈然としない部分が残る。清水は「**一〇分の一献金**」より多く三〇〇万円を大田八幡教会に献金していたという。「**一〇分の一**」なら年間三〇〇〇万円、「**五分の一**」なら一五〇〇万円の成功報酬を受け取っていたことになる。年間で一五〇〇万円以上なのか、トータルで一〇〇〇万円なのか、数字はあまりにも隔たりがあるが、どちらが正しいかはともかく、脱会活動がサイドビジネスレベルの収入になっていたことだけは確かだろう。

しかし問題は金額の多寡のみにあるのではない。領収書が登場しない水面下での金銭授受であることがより問題なのだ。

清水に「個人収入については、当然、税務申告しているんでしょうね」と質問すると、「えっ、必要なの？」と素っ頓狂な声をあげた。これには啞然としてしまい、文鮮明と同じじゃないかと、電話口で笑いをこらえるのに苦労した。

というのは、麻子の説得のときがそうだったように、清水に限らず牧師たちは信者に、文鮮明は脱税によって刑務所に入れられた、いかに悪い奴かを教える。